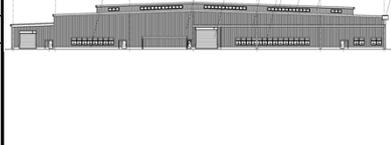


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)伊藤金属工業株式会社 本社	階数	地下1階地上2F
建設地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字姥	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、農業振興地域、宅	平均居住人員	145 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,410 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年9月4日
敷地面積	31,633 m ²	作成者	山本 康博
建築面積	16,196 m ²	確認日	2018年9月5日
延床面積	18,077 m ²	確認者	山本 康博



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値: 100%
 ②建築物の取組み: 87%
 ③上記+②以外の: 87%
 ④上記+: 87%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.5

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **117.6 %**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0 %**

②資源の有効活用

3.6

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										
② 耐久性の高いガルバリウム鋼板を採用 工場の床仕上げに長期耐久性をもつタフコンを採用										

3 対応性・更新性				4.5	0.48				4.5
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			工場の階高は1FL+9.11m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			外周壁544.2m/専用面積16,196.22=0.034	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.9	0.38				
1 空調配管の更新性		②	露出配管を採用	4.0	0.17				
2 給排水管の更新性			露出配管を採用	5.0	0.17				
3 電気配線の更新性			露出配線配管を採用	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			露出配線配管を採用	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30				3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上			設備架台(GL+10m以上)を屋根上へ設けている	4.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー					0.40				3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				2.0	-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.73	3.7	0.43				3.7
4 効率的運用				3.0	0.29				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			WCの手洗い全てに自動水栓を採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63				3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	土間下砕石に、リサイクル砕石材を採用	3.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽量鉄骨+仕上材としており、またOAフロアを採用	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	換算スコア3.4	3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	搬入・搬出車のルートと従業員のルートを検討スペース確保に努め	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明を行っていない	4.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)伊藤金属工業株式会社 本社工場新設計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.5	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:117.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 外構緑地の確保、社員用・管理車両用の駐車場の確保等により、周辺環境との調和を図り、かつ近隣環境への影響低減に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 工場内の設備配管は露出配管とすることで更新性を良くした。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に緑地を確保することで、暑熱環境の緩和を図った。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ適合性判定において基準を満たし、エネルギー消費低減に努めている。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 衛生器具は節水型を採用し、センサー一体形小便器や泡沫タイプの水栓・自動水栓を採用することで水資源保護に努めている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に駐輪場・駐車場スペースを確保し、周辺への影響低減に努めた。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。